

景観形成作物の品種選定と栽培方法

雪印種苗(株) 北海道研究農場

入山 義久



1 はじめに

花を用いて景色を飾ることを、人々は様々な目的で行ってきました。家庭の庭先に季節の花を植え、楽しむ人も多くいます。また、各市町村では名物になる花を植え、観光客を呼んでいます。近年は欧米風のガーデニングが流行し、プランターはハンギングバスケットなどを用いて、花が植えられています。花を楽しむためには、様々な方法がありますが、予想以上に予算が掛かったり、管理などの手間が掛かってしまうことがよくあります。今回は、花壇や畑など、地面で直接植物を育て、花を楽しむ方法をご紹介します。

2 使用する品種をどのように選択するか

では、花を育てて楽しむにあたり、実際にはどんな植物を使ったらよいのでしょうか。花を選択する時に、どんな条件で品種を選択するのがよいか、そのポイントを簡単にまとめてみました。

1) 花を作る面積を決める

畑一面に花を咲かせるのか、数坪の庭に花を咲かせるのかで、使用する花が決まります。大面積に花を咲かせる場合は、遠景で楽しめる花の咲く緑肥作物が価格的にも適します。一方、面積が小さい場合は、多少高価になりますが、近景で楽しめる花壇苗やミックスフラワーが適します。

2) 花を鑑賞する期間を考える

予め、1年草にするか、宿根草にするかを決めなければなりません。1年草では、毎年の更新が必要になりますが、宿根草では毎年の更新は必要ありません。また、花を咲かせる場所がいつまで使用できるかも問題になります。花を植えた1年

目に、宿根草の花を楽しみたい場合は、ある程度育てられた花壇苗を植えるとよいでしょう。

3) 手入れにどのくらい時間を割けるか

植えたまま、何も手入れしなくても美しい花を鑑賞できる植物もあります。逆に除草など手入れをすればするほど、見栄えの美しい植物もあります。手入れにどのくらい時間を割けるかを考えて、使用する草種や品種を選ぶようにします。

4) 予算がいくらか

市販の花壇苗を購入するより、種子を購入し、自分で播種から行う方が一般的には安価になります。ミックスフラワーや花の咲く緑肥作物がこれに当たります。市販の苗を使う場合は、花によって設定されている㎡当たりの植栽株数、苗単価、植栽面積などから予め試算し、予算とのつり合いを考えておきましょう。

5) 栽培地域の気候にあった花を選択する

雑誌や本などに載っている花を栽培してみたいと思っても、栽培地域が異なってしまうことがあります。特に、北海道や府県の高冷地では、冬の寒さが厳しいため、越冬できない植物が多数あります。栽培地域の気候にあった花を選択することが、大切になります。

6) 栽培場所の環境にあった花を選択する

栽培場所が日陰地、水はけの悪い土地等の場合、栽培できる植物も限定されてしまいます。栽培場所の環境条件が改善できる場合は、予め土壤改良したり、日陰を作る木の枝をせん定したり、条件を改善する必要があります。栽培場所の条件の改善ができない場合は、日陰地や湿潤地でも栽培ができる植物を選択する必要があります。

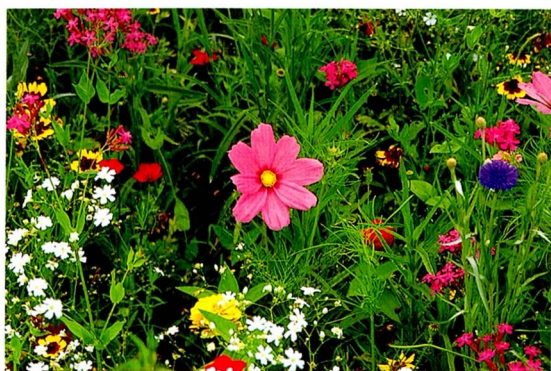


写真1 ミックスフラワー エレガンス

表1 北海道向けスノーミックスフラワー

商 品 名	開花期 (月)	播種期 (月)	草丈 (cm)	使用草種
エレガンス	6~10	4~6	40~80	1年草
ファンタジー	6~10	4~6	20~40	1年草
コスモススーパーグラディーション	6~10	4~6	50~120	1年草
スノーレインボー	6~10	4~7	30~80	1年草+宿根草
レインボーカーペット	6~10	4~7	15~40	1年草+宿根草
カントリーロード	6~10	4~8	30~80	1年草+宿根草

3 景観形成作物の栽培方法

1) ミックスフラワーを栽培する

単一な花だけでなく、花畑のような景観を作りたい場合や、近景で花を楽しむ場合は、ミックスフラワーが適します。

ミックスフラワーは、種子を実播しても容易に栽培が可能な花を、花の色合いや競合の強弱を考慮して、最適な混合割合でミックスしたものです(写真1)。ある程度のやせ地であっても生育し、比較的簡単に綺麗な花を楽しむことができます。一度播種を行うだけで、たくさんの花が同時に開花し、また、季節ごとの草花の移り変わりを楽しむことができます。ミックスフラワーに使用されている草花は、多数あります。当社ではミックスフラワーを「北海道向け」および「府県向け」に分け、それぞれの栽培地に適したミックスフラワーを商品化しています(表1, 2)。

播種は簡単に行うことができます。まず、播種予定地を耕し雑草を取り除き、整地を行います。雑草をできるだけ取り除くことが、綺麗に開花させるためには、重要になります。雑草の種子を一度発芽させ、除草剤を散布すると効果的です。畑の土など肥えた土では無肥料でも生育しますが、化成肥料を30~50 g/m²あたり基肥として施用す



写真2 キカラシによる大面積の緑化

表2 府県向けスノーミックスフラワー

商 品 名	開花期 (月)	播種期 (月)	草丈 (cm)	使用草種
春物語エレガンス	4~6	9~10	40~80	1年草
春物語ファンタジー	4~6	9~10	20~40	1年草
春物語スタンダード	4~6	9~10	40~80	1年草
夏物語エレガンス	6~10	5~7	60~80	1年草
夏物語ファンタジー	6~10	5~7	20~40	1年草
コスモス物語(3タイプ)	6~10	5~7	60~140	1年草
トールタイプ	4~10	3~6・9~10	60~120	1年草+宿根草
ロアタイプ	4~10	3~6・9~10	30~60	1年草+宿根草
ハイランドタイプ	4~10	3~6・9~10	40~70	1年草+宿根草
ポピュラータイプ	4~10	3~6・9~10	60~120	1年草+宿根草
カーペットタイプ	4~10	3~6・9~10	20~40	1年草+宿根草

ると良好に生育します。あまり肥料が多いと、背の高い草花が倒れてしまうことがありますので、注意が必要です。播種量は1~2 g/m²程度と少ないため、種子量の10倍位の乾いた土とよく混合し、縦、横、斜めと数回に分けて播種を行うと、片寄りがなく均一に播種することができます。播種が終わったら、レーキなどで軽く土をかけ、鎮圧を行います。乾燥が続くと発芽がそろわないことがありますので、種子が流れない程度に灌水を行います。ミックスフラワーを広範囲で栽培する場合は、初期生育時の雑草の防除に手間が掛かるため、予め「すじ播き」することをお勧めします。

2) 花の咲く緑肥作物を用いる

広範囲の緑化で造成費用を抑えたい時や、畑一面に花を咲かせたい時などは、花の咲く緑肥作物が適します。従来、緑肥作物は主に土を肥やす目的で使用されていましたが、最近では、ミックスフラワーに比べて価格が安いいため、大面積の緑化に使用されています(写真2)。



写真3 カワミドリ

当社で取り扱っている花の綺麗な緑肥作物は、キカラシ(作物名:シロカラシ,花色:黄),アンジェリア(作物名:ファセリア,花色:紫),くれない(作物名:クリムソクローバー,花色:赤)などがあります。

播種は比較的簡単に行うことができます。初期生育が早いので、播種前の床土の除草を行えば、雑草に負ける心配はほとんどありません。

緑肥作物は、10 a 単位の大面積の緑化を容易に行うことができますが、1年草であり、毎年の更新が必要なこと、開花の期間が短い(開花盛期は2週間程度)ことが、短所として挙げられます。

3) 花壇苗を用いる

狭い面積の緑化で、早く花を楽しみたい場合は、市販の花壇苗を用います。春はパンジーやビオラ、夏はマリーゴールドやサルビア、インパチェンス、秋は葉牡丹など、季節ごとにたくさんの苗が流通しており、花色を自由に選んで使用することができます。苗の価格や生育環境を考えて、使用する種類を選びます。尚、花壇苗については流通している草種や品種がたくさんあるため、ここでは詳細は省略させていただきます。

4) 野草を用いる

最近になり、高山植物を始めとして、野山に咲く可憐な野草を、家庭で栽培しようとする方が増えています。好ましくないことですが、登山が気軽なスポーツとなったため、綺麗な高山植物を採取し、家庭で栽培しようとする方がいます。しかし、高山植物は過酷な条件下で生育しており、平野部の気候では栽培できない種類が、数多くあります。また、高山に限らなくとも、平野部においても、花の綺麗な野草が数多くあります。街では



写真4 エゾミソハギ

最近見かけなくなった植物でも、街から外れれば見ることができる植物もあります。しかしながら、自生地から、直接植物体を抜くことは、自然植生保護の観点からも、好ましくありません。

また、近年では自然環境の保護、保全が注目を集めており、山間部に建設される道路の法面、砂防ダム周辺、河川や湖沼など水辺環境の改修工事などにおいて、従来の外来牧草(芝生)を使用せずに、在来種を用いて緑化する工法の必要性が高まっています。当社では、在来野草の種子からの増殖について、研究を行ってきました。ここでは、一般家庭でも栽培が容易であり、園芸種に劣らず鑑賞性が高く、綺麗な花の咲く在来野草をいくつかご紹介いたします。

①カワミドリ(写真3)

日当たりの良い土地に生える多年草です。ラベンダーと同じシソ科で、全体に芳香があります。7月中旬～9月上旬に赤紫色の花を咲かせますが、花卉が散った後も、花穂が紫色で美しく、鑑賞期間が長くなります。草丈は50～100 cm、分枝も多く、60 cm 間隔で一面に植付けを行うと、遠景でラベンダーのような景観が楽しめます。

②エゾミソハギ(写真4)

山野の湿地などに生えるミソハギ科の多年草です。7月中旬～9月上旬に、小さい花を順々に咲かせるため、鑑賞期間が長くなります。自生地が湿地であるため、排水の悪い湿った土壌でも良好に生育することができます。草丈は60～120 cmで、近景で鑑賞するよりも、群生させて遠景で鑑賞するほうが適すと考えられます。

③ヤナギラン(写真5)



写真5 ヤナギラン



写真7 オカトラノオ



写真6 コハマギク

日当たりの良い草原に生えるアカバナ科の多年草です。7月上旬～8月中旬に紅紫色の花を咲かせます。草丈は高く、まれに1.5 m程に生育する場合もあります。根茎で容易に増えるため、数年で群生します。草姿が大型で、増殖力が強いので、一般家庭の庭よりも、遠景で楽しむ自然公園などが適していると考えられます。

④コハマギク (写真6)

主に海岸の岩上や砂地に自生するキク科の多年草です。草丈は15～30 cmと低く、葉は肉質であり、地下茎によって旺盛に広がるため、グラウンドカバープランツとしての利用も可能です。開花時期が秋遅く、他の花が咲いていない10月上旬～下旬に、直径5 cm程度の白色の花を咲かせます。近景で鑑賞することが中心と考えられるため、一般家庭の庭先や、道路の中央分離帯などでの使用が適すると考えられます。

⑤オミナエシ

日当たりの良い山野に生えるオミナエシ科の多年草です。草丈は60～100 cm程度で、8月上旬

～9月中旬に、直径3～4 mmの黄色い花を密に咲かせます。秋の七草の一つです。

⑥オトコエシ

日当たりの良い山野に生えるオミナエシ科の多年草です。草丈、開花期間などは、オミナエシとほぼ同じですが、つる枝を伸ばして広がり、白色の花を密に咲かせます。

⑦オカトラノオ (写真7)

日当たりの良い草原に生えるサクラソウ科の多年草です。草丈は80～100 cmで、茎は分枝せず直立し、7月中旬～下旬に茎の先端に白い花を密に咲かせます。花穂の長さは10～15 cm程度で、虎の尻尾に似ていることから、この名が付いたとされています。開花は播種後3年目以降となり、長期を要しますが、オカトラノオが一面に咲き乱れる姿は感動的です。

4 おわりに

身の回りに咲き乱れる花々は、人の心にゆとりと優しさを与えます。手軽に、簡単に、そして奇麗に花を咲かせるためには、実際に栽培する前に、栽培しようとする草花の特性を理解することが大切です。気に入った花を、小面積でもよいですから栽培してみることをお勧めします。

最後に、今回ご紹介した在来野草は、主に北海道と府県寒冷地に適する野草です。日本各地には、東アジアにしか存在しない貴重な野草も幾つかあります。当社では在来野草は研究途中にありますが、今後は研究対象となる野草の種類を増やし、「環境にやさしい緑化」を目標に研究を進めていきたいと思っています。